

インドネシア共和国サバン市による姉妹都市提携の希望

2017年6月

在メダン日本国総領事館

今般、インドネシア共和国サバン市より、日本の都市との姉妹都市提携を希望する旨の要望がありました。以下サバン市の概要を紹介します。

1 サバン市の概要

(1) 基礎データ

所在地 北緯5度53分29秒 東経95度19分14秒

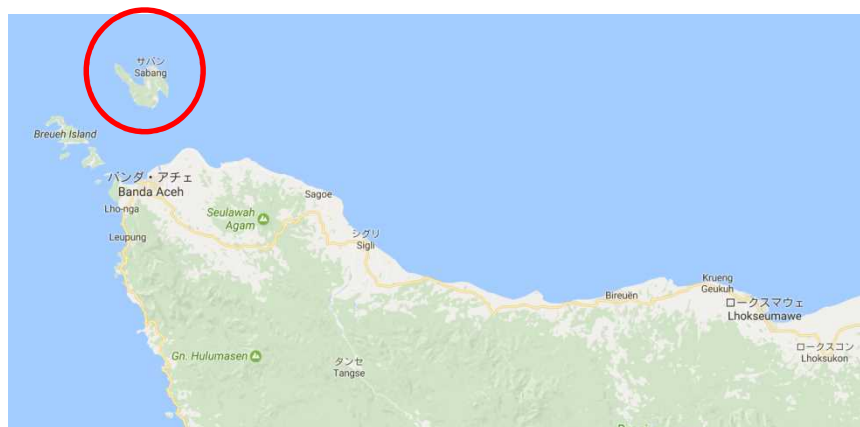
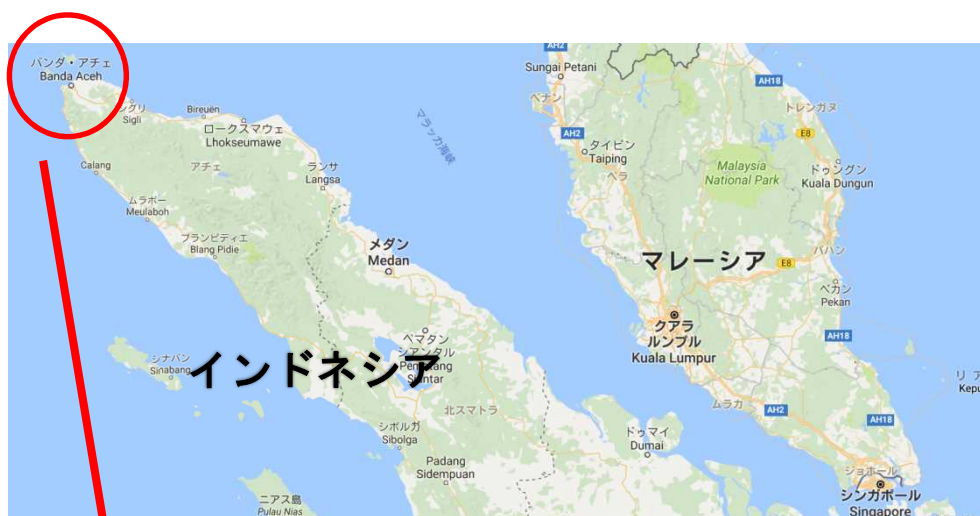
面積:153km² (サバン市が位置するウェー島他)

人口:33,215人(2015年)

日本との時差:-2時間

公式観光ウェブサイト:

<http://pariwisatasabang.info/>



(2) サバン市は、インドネシア共和国最西端にあるウェー島の街です。人口3万人強の都市で、漁業が盛んな街です。美しい海岸線を有することから、シュノーケリング、スキューバダイビングポイントとして知られるほか、漁業が盛んであることから、新鮮なシーフードを味わえる街です。街の雰囲気はのどかな島情緒を有しており、夕方には西空にある夕焼けを楽しむ市民の姿を見かけます。

【写真:サバン市近くのルビア島海岸(上)とその海中の様子(下)】



2 サバンの歴史

(1) サバンという名前の由来はアラビア語のShabag(火山という意味)です。以前から活火山があったためと言われており、現在も活火山があります。

(2) サバン市が位置するウェー島の名前の由来はアチェ語のウェーからで、移る、引越すという意味。言い伝えによれば、以前はウェー島とスマトラ島はつながっていましたが、火山噴火の影響で、現在のウェー島部分がスマトラ島と切り離され、島となったとのことです。

(3) 1881年、蘭領東インドはウェー島内に蘭海軍の石炭供給基地を作ったが、その後、基地は一般船舶にも解放されました。同基地では、西スマトラから供給される石炭、南スマトラのパレンバンから供給される石油、そして飲料水等を船舶に供給しました。

(4) 1896年、サバンは自由港として開港。国際交易の経由点として機能し、デリ王国(現在のメダン周辺)の農産品であるタバコや、アチェ周辺の胡椒、アレカ椰子が扱われました。

(5) 1910年、蘭領東インドは、サバンに無線交信用基地を設立しました。

(6) 1942年、日本がサバン占領、1945年、連合軍はサバンへの攻撃を実施し、インフラが破壊され、その後オランダの統治下に入りました。1950年、サバンはオランダからインドネシアへ返還されました。

(7) 1970年、サバンは自由貿易地域として法律で定められました(30年間の措置)。1985年、インドネシア中央政府は、サバンを経由した密輸の横行や、バタム島の自由貿易地域認定が定められたことから、サバンの自由貿易地域を取り消しました。

【写真:ゼロ・キロメートル・ポイントとクネウカイ温泉(次頁)】





3 サバン市の特徴

- (1) インドネシア最西端の島であることに加え、距離計測開始地点という意味でのゼロ・キロメートル・ポイントと呼ばれる観光スポットがあります。
- (2) 豊かな漁業資源に恵まれており、漁業者が多く、マグロの漁獲もあります。
- (3) 美しい海岸を複数有しており、スキューバダイビング／シュノーケリングスポットとしても有名です。
- (4) サバンへのアクセスは、以前はバンダ・アチェ市からの船舶移動のみ（高速船45分、フェリー2時間）でしたが、現在はメダン直行の航空便が就航しています。

4 サバン市の産業

- (1) 漁業
- (2) 観光業

【写真:サバン名物のミー・ジャラック】



5 姉妹都市に関するサバン市の意向

サバン市と共通点を有する日本の地方自治体と姉妹都市関係をもちたい意向です。具体的には、漁業が盛んで、観光・文化面で力を入れている自治体との関係を願っています。2018年は日本・インドネシア国交樹立60周年であることから、それを契機として姉妹都市関係の樹立を希望しています。

[お問い合わせ先]

◆外務省大臣官房総務課地方連携推進室

電話: 03-5501-8491

メール: gaimu-renkei@mofa.go.jp

なお、サバン市以外の都市でも日本の自治体と姉妹都市提携を希望している都市があります。以下の姉妹都市募集情報もご覧ください。

外務省ホームページ内「グローバル外交ネット」

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/local/action/sf_city.html